令和6年度 第3回 運行管理高度化ワーキンググループ 議事概要

【日時】令和7年3月3日（月）14：00～16：40

【出席者（委員）】伊藤委員、今井委員、上田委員、大橋委員、小田切委員、小野委員、加藤委員、酒井委員、高橋委員、吉村委員（50音順）

【出席者（オブザーバー）】永嶋様（代理：武田様）

議事次第に沿って事務局から資料を説明後、意見交換が行われた。

なお、委員から出された主な意見は以下の通り。

事業者間遠隔点呼について

- 被受託点呼者の前日までの勤務状況や当日の運行計画に関しても、事前に事業者間で共有し、受託点呼実施者が確認することが重要である。
- 受委託営業所間で共有すべき点呼に必要な情報について、どれくらいの頻度で共有すべきか明記すべきである。
- 事故発生時には、被受託点呼者の疾病、疲労、睡眠不足等の情報が受委託営業所間で共有されていたのかが争点となるだろう。実施事業者は、誰が、何の情報を共有するのか、明確にしておくべきである。
- 受託点呼実施者が、被受託点呼者の疾病、疲労、睡眠不足その他の理由により安全な運転をすることができないおその状況を、平常時と比較して確認するためには、受委託営業所間で薬の内服の必要性等の情報についても共有される必要があるため、その点を明記すべきである。またそれらの情報等は個人情報であるため、事業者が運転者から同意を得る際の雛形を用意しておくことが親切だろう。

業務前自動点呼について

- 体温及び血圧の値について、「平常時の値を取得するのは事業者、点呼に用いる体温及び血圧の値を設定するのは運行管理者の業務とする」とあるが、最終的に責任を負うのが誰なのか、明らかにしておくべきである。事故発生時には、共有されている情報とその共有範囲が重要になるので、事業者が取得した情報は運行管理者に共有すべきという点も明記すべきである。
- 体温及び血圧の値についても、データを活用することで事故を防止できる可能性は大いにある。体温及び血圧測定のみならず防止も実施した方がよい。
- 体温及び血圧の平常時の値や許容範囲を設定することは、運行管理者にとっては非常に大きな負担となることが考えられる。運行管理者のみで対応することはかなり難しいため、産業医や衛生管理者のサポートを受けることも一案である。また、設定の手引きを今後示していくことも必要になると考える。
- バイタルのデータについては今後もデータを収集しつつ、その活用方法につい

て議論をしていく必要がある

- 業務前自動点呼の実施場所の拡大については、事業者からの要望もあると承知している。
- 用語について、わかりづらい部分は誤解が生じないように修正してほしい。

運行管理業務の一元化の運行管理者選任数に係る実証実験について

- 将来的に、1つの集約営業所に対して2つ以上の営業所を被集約営業所としたというニーズが生まれる可能性があると思っている。

同一事業者内遠隔点呼・業務後自動点呼の実態調査について

- 個別の制度に対して個々の機器の議論をするだけでなく、運行管理や勤怠管理等と連携した、デジタルを活用したシステムの構築について今後議論をしていくことが必要と考える。

令和7年度取組について

(特に意見なし)

その他

- タクシー事業の許可を得ていない者に対してタクシー事業の運行管理業務を委託することが可能か議論され、現在進めている運送事業者間での遠隔点呼の制度化の後、順を追って検討していく必要があり、現段階では時期尚早であるとの結論に至った。

以上